

図IV-2 地域別環境特性モデル《低地帯》

市街化
都市基盤整備
の進行

➔

ビオトープ
ネットワーク
化の推進

生息樹林地
の孤立化

➔

樹林地の
復元・創出

●オオタカ生息地における現況の評価

- ・営巣地確認箇所は13箇所、うち繁殖の成功が確認されたのは3箇所である（1998年12月現在）。
- ・営巣木の規模が平均で約12haと小さく、営巣木は針広混交林内のスギ・ヒノキが主に使用されているほか、広葉樹の営巣例もあり、営巣環境としての質的・量的な問題が懸念される。
- ・生息環境は、市街地等の人工的環境の割合が高く、樹林地等の自然的環境と畑地等の農地的環境がセットで存在し、農業水路や河川でネットワークされている状況にある。

●保護方策検討のための調査のポイント

- ・既往情報の収集に際しては、地域の住民や観察者のほか、周辺で農作業をしている人から聞き込みを行う。
- ・踏査に際しては、事前に地権者の了解を得て行き、樹林地以外の周辺農地も注意深く観察する。
- ・定点調査に際しては、起伏が極めて少ない地域であるため、山地部の調査よりも多くの定点を設置する必要がある。ビルの屋上など見晴らしの利く場所を定点に選ぶことが効率的である。

